

三条市子ども・若者総合サポート会議 実務者会議（第2回若者支援部会）
（兼内閣府モデル事業第3回地方企画委員）議事録

日 時 平成22年3月19日（金）午後4時30分～5時30分

会 場 栄庁舎3階大会議室

出席者 別紙名簿のとおり

次 第

1 あいさつ

2 議 題

(1) 内閣府モデル事業実施状況について

(2) 三条市子ども・若者総合サポートシステムの実施状況について

(3) 平成22年度「子ども・若者支援地域協議会体制整備モデル事業」について

(4) その他

議事要旨

1 挨拶 三条市教育委員会 教育部長 古川 聖登

2 各機関及び事務局紹介 各自自己紹介

3 議 事

(1) 内閣府モデル事業実施状況について

○事務局説明

内閣府地域における若者支援のための体制整備モデル事業」実施状況 に基づき、事務局（青少年育成センター）から説明

○質疑 無

(2) 三条市子ども・若者総合サポートシステムの実施状況について

○事務局説明

「三条市子ども・若者総合サポートシステムの実施状況について」に基づき、事務局（青少年育成センター）から説明

○質疑 無

(3) 平成22年度「子ども・若者支援地域協議会体制整備モデル事業」について

○事務局説明

平成22年度「子ども・若者支援地域協議会体制整備モデル事業」について に基づき、事務局（青少年育成センター）から説明

○質疑 無

○ディスカッション

・講習会に参加できてありがたいと考えている。新年度も参加させていただきたい。アウトリーチ研修についても、来年度特に重点的に取り組んでいきたいと考えているので、是非とも参加させていただきたい。

・総合サポートシステムについては、全国のサポステの会合があるのだが、このシステムを念

頭に置かれて活動していこうという方向になっている。

- ・最近福島のスボステから視察が来たが、非常にうらやましがられた。
- ・サポートシステムが全国に先駆けてこの取り組みがなされ、非常に恵まれていると考えている。来年度も引き続きシステムの拡充に努めていただければと思う。

(事務局)

- ・事例発表をすると、県内・全国でも反響があり、質問も多い。先進的な事例であるということで知名度も高まっている。
- ・アウトリーチも含め、8回の研修を予定しているが、決定の通知は6月くらいになるのではないかと。ぜひスボステの方から参加をいただき、一緒に取り組んでいきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

(4) その他

○ディスカッション

- ・以前から気になっていたのだが、三条ワークサポートという就労支援系の組織が勤労青少年ホームに移るといふ話があるのだが、そこの連携といふ話はあるのだろうか。

(事務局)

- ・ワークサポートに勤務されている職員の方からお話をお聞きした。スボステと密接な関係を構築できるだろうと期待している。ハローワークと縁遠くなることを危惧されているようだが、一緒にやっぺいかなければならぬだろうと考えている。詳しい情報があったらお伝えいただき、親睦を深めていければと考えている。
- ・三条市では何でも相談室といふ窓口が構築されると思ふのだが、振り込めさぎなどに協力していくことになろうと思ふ。そのときの情報交換を円滑化するために、案内のためのリーフレットなどがあれば助かるのだが、そういった広報手段などがあるか。
- ・また、協議会でどこまでを対象とするのかの基準のようないふものがあれば非常に助かるのだが、いかがか。

(事務局)

- ・何でも相談室は窓口の総合化を推進する流れの一環として設立した。別途、連携をお願ひしているところである。何でもと言ったからには、市民は何でも相談できると思ふて来所されることと思ふ。外の機関も含め、市役所の内部で縦割りの弊害を無くして行こうといふ決意の表れでもある。したがって、カバー領域は当然広いものと考えているが、子ども・若者の問題に関しては、市民窓口課の方とも情報交換を行い、その範囲については理解いただけていると思ふ。今後、機会があれば調整させていただければと思ふ。
- ・行政の窓口として、市民窓口課の中には無いのか。
- ・人権問題だったら法務省が中心となった人権相談所があるだろうと思ふ。弁護士が中心となつて対応する必要のあるところもある。三条市全部を網羅した一覧表を作つて市民に伝えることが重要なのではないかと。どこまでおやりになるのか。

(事務局)

- ・名称が「何でも」とついているので、その経緯についてお話させていただきたい。
- ・市民窓口課は消費者相談を対応しているほか、行政相談も対応してきていた。近隣

のもめごとなど、何でも対応していた。つまり、もともと行っていた。DV相談、虐待相談、非行相談などをありとあらゆる課で行っていた。実際には、うちの専用電話にかければ一番早い。ただ、毎月一回広報三条という雑誌で、相談を行っていることの一覧表が掲載されている。自分がどこにアクセスすればいいかわかる人はその中の該当窓口にアクセスすればよいのではないか。それがわからない人は「何でも相談窓口」にかけてもらうという仕組みを想定している。

- ・消費者相談などの専門の相談を含め、市民窓口がこれまでの相談対応領域を充実させていく。広報の内容も見やすく、わかりやすくを目指して努力していきたい。
- ・あればどこかにつながっていけるという主旨でご理解いただければと思う。
- ・どこに相談していいかわからない人ほど対応しなければならない人である。窓口はわかるんだけど、行きづらいから私のところに来る人もいる。そういう人もたくさんいるということを理解していただければと思う。

(事務局)

- ・何か支援をしてもらいたいんだ、ということであればお電話いただきたいという広報努力はしているのだが、行政に対する敷居はまだまだ高いようである。出来るだけ身近な相談先として活動していきたいと考えているので、ご紹介よろしくお願ひしたい。
- ・民生委員との兼ね合いはどうなっているのか。

(福祉課)

- ・民生委員は171名いるが、それぞれで対応できる部分とできない部分がある。できない場合は他の機関や窓口などに連携してもらうような体制を構築している。

○まとめ

(事務局)

- ・市役所や県庁などに入るとおどおどしてしまうが、これが一般的な市民の気持ちなのではないか。本当にどうしていいかわからない人たちがたくさんいるのだろうということは感じる。
- ・私の知る限り、子ども・若者関係の公務員の皆様は子ども・若者の幸せを願っていると感じる。末端の現場の人から上層部の人までそうである。切れ目のないサポートシステムを作っていくことで、私たちの活動をどういかしてもらえるのかが重要だろうと思っている。
- ・個人として三条市の活動を宣伝している。どんどんいい話の宣伝ができるように活動をしていきたいと思う。」

○挨拶（教育部長）

- ・貴重なお時間をいただきありがとうございます。先ほどの代表者会議に引き続いてのご参加いただいた方、本当にありがとうございます。
- ・三条市は子ども・若者を支援するという大きな挑戦をしている。内閣府の後押しを受けて、この会を実施したり、若者・子どもを支援する相談員を養成させてもらっている。
- ・皆様のご協力で行っている事業は大変反響があり、三条市市長に内閣府から講演の依頼が来てい

るところである。自分もこの事業に邁進していきたい。

- ・悪は結託しやすいが、善はなかなかそれが出来ないという言葉もある。子ども・若者を支援していきたい、守っていきたいという思いが立場が違ってても共有できることと思っている。全国の自治体にも参考にしていただけるような体制を構築していきたいと考えている。今後ご協力のほど、何卒よろしくお願いしたい。